



炬火を掲げていざ謳う

No.15



我らの泉鳥取

2022年9月12日（月）

編集・発行 泉鳥取高校 教頭（妻木）

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

連綿と続く 卒業生

心に残る 就職指導

全求人票を読みぬいて



泉鳥取高校は、昔から就職を希望する生徒が多い学校です。それに関するエピソードを一つ。平成になったころの学校推薦の就職日程は、7月1日求人票学校宛て送付解禁、20日全員対象就職説明会、その日の午後から求人票公開開始、8月20日以降に校内調整、学校推薦会議、9月5日応募書類発送、16日就職試験解禁という日程で進みました。

15期生の松井豊くんは、平成4（1992）年、受け付けたすべての求人を見ました。バブル崩壊直後とはいえ、求人は受付件数700件を超えており、男子の求人約400枚の求人を読み切ったのです。私が「どんな企業がいいのかな？」と聞くと、「先生、俺な、交代制勤務でもええし、住み込みでもええから、しっかりした会社に行きたいねん」とリクエストをしていました。

バブル崩壊直後のことで、下手な企業は紹介できません。堅実な東証一部上場の製鉄会社を4社紹介しました。本人は喜んで求人票をコピーして帰宅したのです。でもまた2～3日経つと、また進路資料室に彼が来ています。「以前に紹介した求人になにかあったのか？」と聞くと「先生に勧めてもらった求人、家で見ててな、もし自分が50歳になったとき、そこで働いている姿を想像でけへんねん」

普段は明るく、楽天的に見える松井くん、すべての求人票を見、保護者とも相談し、しかも30年後の自分をイメージしていたのです。就職担当一同で感動しました。結局彼は、東証一部上場の建設機械レンタル会社に就職しました。

現在松井くんは48歳、今回久しぶりに連絡が取れ、現在も元気にしており、岸和田市内で大工として独立しています。

就職してからのお話を聞かせてください。

建機レンタルの会社で、入社直後阪神淡路大震災が

あって、その復興のための機械や車両の段取りにきりきり舞いました。でも、『人の役に立って 卒業アルバムより』ことが実感できました。しかし、ある日先輩の給料明細を見てしまったんです。今から思えばとんでもないことなんですが、賃金の上昇が少ないと感じてしまったんです。その後友人の会社の立ち上げに参画し多くの収入を得ましたが、最終的にはモノづくりの大工に落ち着きました。結局収入より、やりがいがあったり、好きだったりという仕事が長持ちします。

今の生徒にメッセージをお願いします

今から思えば、収入も大事だけれど、自分で「楽しい」って思える仕事を見つけてほしいです。やはり仕事を通じて人の役に立っていくのだから、好きで続けられる仕事を見つけてほしいですね。

泉鳥取高校の閉校について

本当に残念です。あの学校で学んだことは多かったから。先生にも出会えたのだから。閉校になるけれど、今の生徒には精いっぱい頑張ってもらいたい。（令和4年9月4日 泉佐野市内で取材）



1992年の進路資料室。現在の生徒指導室の場所。後ろに見えているのは企業別資料。